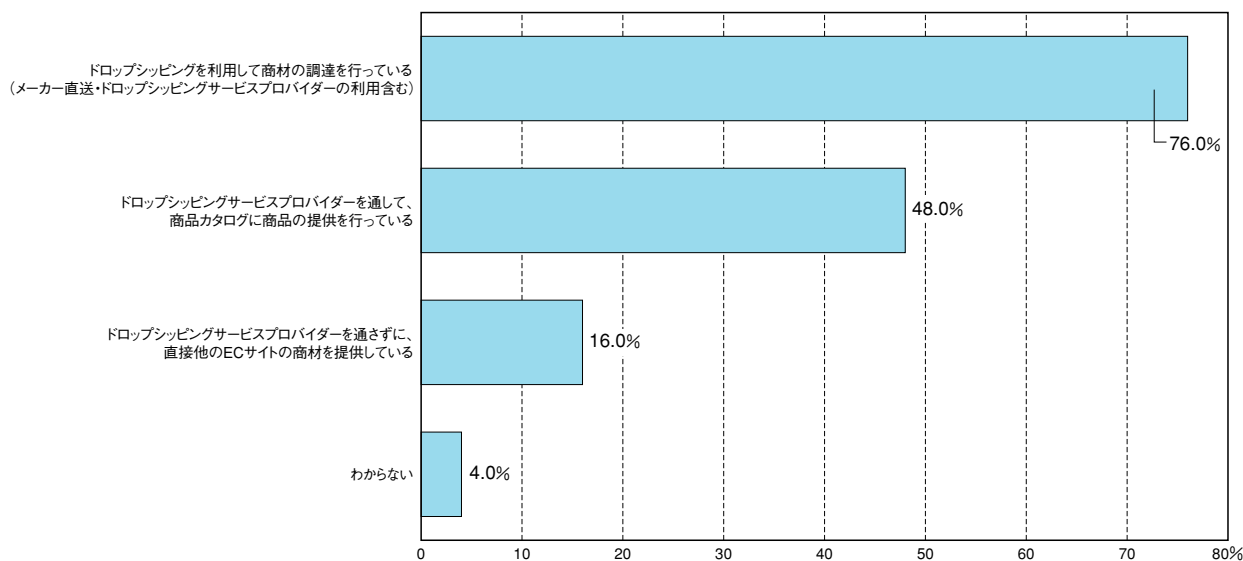


ドロップ SHIPPING/期待効果と課題

「ドロップ SHIPPINGを利用して商材の調達を行っている」が76.0%

資料3-1-37 ドロップ SHIPPINGの利用形態（複数回答） N=25

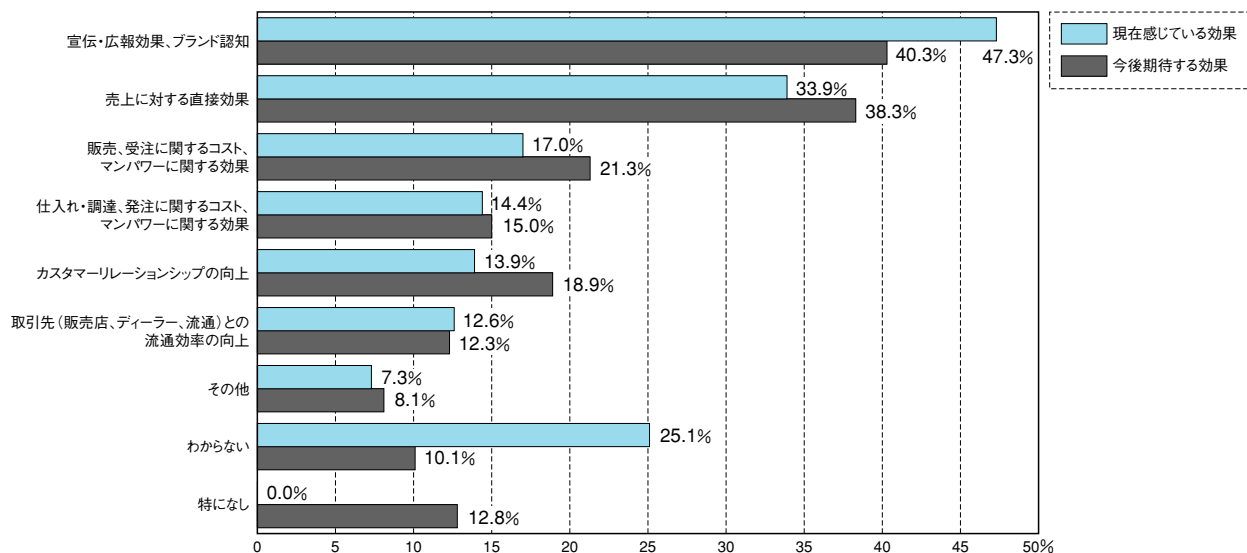


サンプル数が少ないため参考程度にとどめたいが、ドロップ SHIPPING利用企業に対し、その利用形態を聞いたものである。「ドロップ SHIPPINGを利用して商材の調達を行っている」が76.0%と最も高く、次いで「ドロップ SHIPPINGサービスプロバイダーを通して、商品カタログに商品の提供を行っている」が48.0%となっている。

©impress R&D,2007

ウェブサイトにて期待する効果は広報的な効果と直接的な売上

資料3-1-38 ウェブサイトの効果と今後期待する効果（複数回答） N=1,000



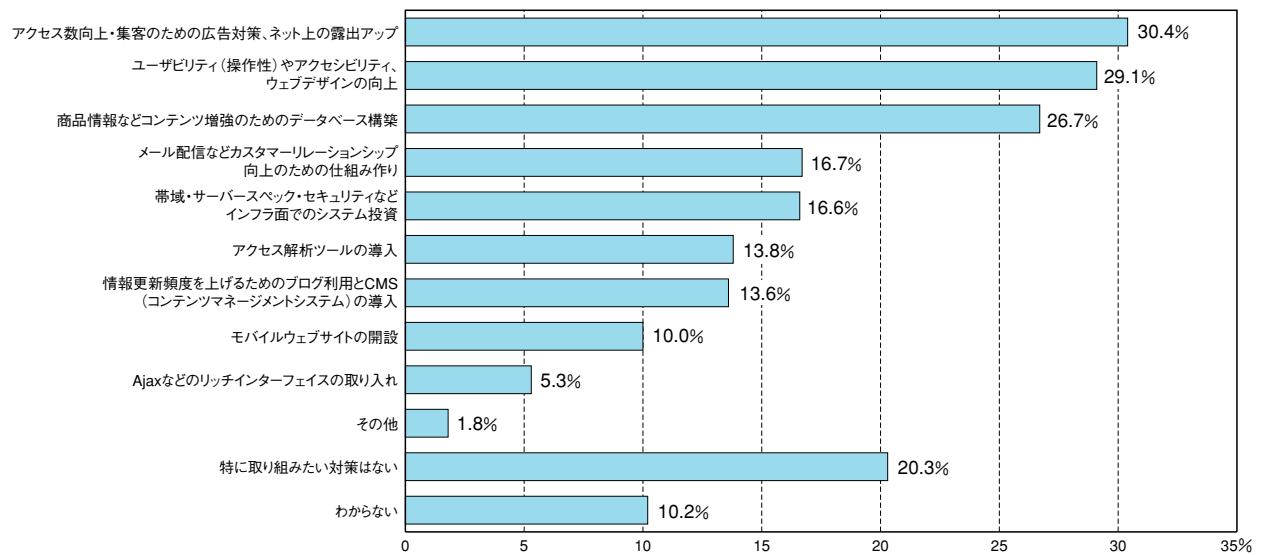
ウェブサイトで感じている効果をみると、「宣伝・広報効果、ブランド認知」が47.3%もっとも高く、次いで「売上に対する直接効果」が33.9%である。一方、期待する効果をみると、大きな傾向は現在感じている効果と同じであるが、「売上に対する直接効果」に対する期待が38.3%と高く、広報的な効果とほぼ並んでいる。

©impress R&D,2007

期待効果と課題

今後取り組みたいのは集客のための技術

資料3-1-39 費用対効果を期待して今後取り組みたいウェブサイトのための技術やサービス（複数回答） N=1,000

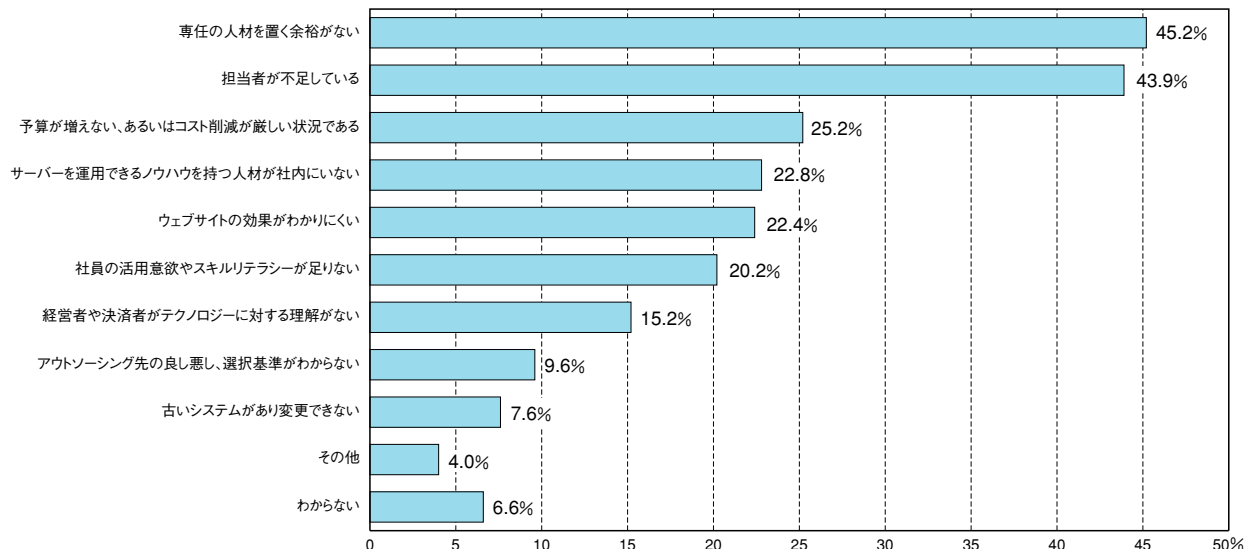


今後取り組みたい技術やサービスをみると、「アクセス数向上・集客のための広告対策、ネット上の露出アップ」が30.4%と、集客のための対策がトップで、ついでユーザーへの配慮やアピールである「ユーザビリティ（操作性）やアクセシビリティ、ウェブデザインの向上」が29.1%となっている。

©impress R&D,2007

人材不足がウェブサイト活用の際の障害

資料3-1-40 ウェブサイト活用の際の障害（複数回答） N=1,000



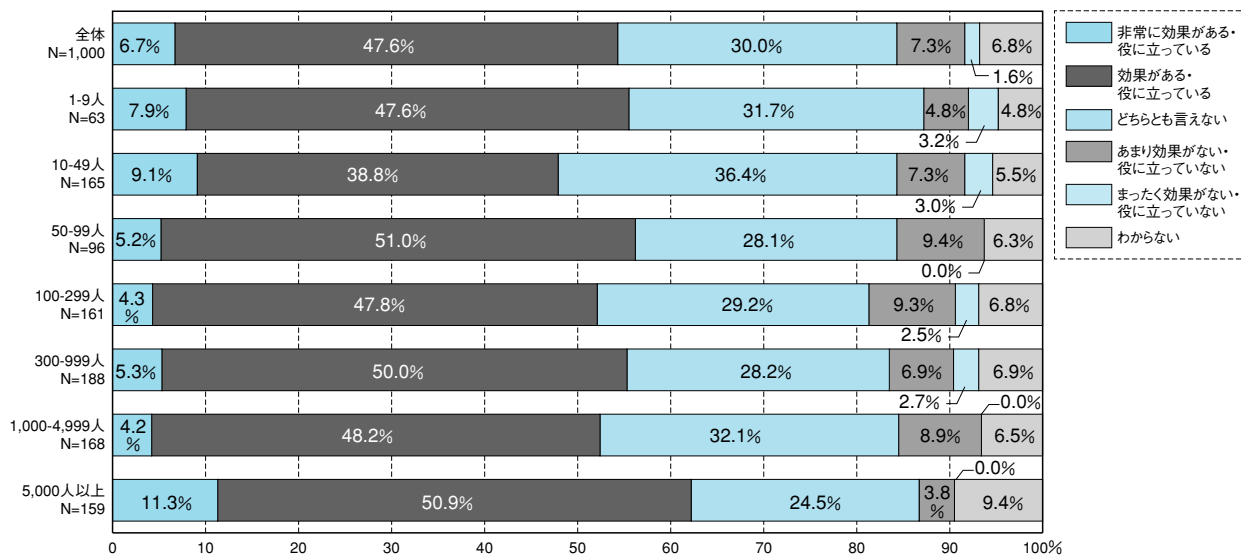
ウェブサイト活用の際の障害をみると、「専任の人材を置く余裕がない」「担当者が不足している」が45%程度と高い比率であり、限られた予算のため、人材不足が障害・課題となっていることがうかがえる。

©impress R&D,2007

期待効果と課題

54.3%がウェブサイトの効果を実感

資料3-1-41 ウェブサイトの効果 [従業員規模別]



ウェブサイトの効果を見ると、「非常に効果がある・役に立っている」と「効果がある・役に立っている」をあわせた、効果があると感じている層は54.3%であり、効果を感じていない層の8.9%を大きく上回っている。多少ばらつきはあるものの、従業員規模でみたときに、効果の感じ方に大きな特徴はみられない。

©Impress R&D,2007



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp